

G 第5回インターナショナル・ウィーク テーマ：ASEAN (タイ・ベトナム) 開催

2011年より、特定の国や地域、国際機関等をテーマとして、1週間にわたってキャンパス全体を学びと体験の場とする「インターナショナル・ウィーク」を開催しています。

第5回となる今回は、日本・ASEAN友好協力40周年であることから、「ASEAN (タイ・ベトナム)」をテーマに、12月9日(月)～14日(土)の期間で実施。

2013年5月に本学グローバル化のマイルストーンとなる「第1回グローバル中央シンポジウム」をタイ・バンコクで開催したこと、また、日本・ベトナム国交樹立40周年であることから、とくにタイ・ベトナムの2カ国を中心に展開しました。



トルン奏者・小栗久美子さんによる演奏会も実施
(撮影:北川陽稔氏)



本イベントは、外務省より「日・ASEAN 友好協力40周年記念事業」として認定されました。

初日の駐日ベトナム大使館ド・バン・チュン参事官による講演「ベトナムの経済発展と日本の関係」および、翌10日の駐日タイ大使館シントン・ラーピセートパン次席公使による講演「タイの社会・経済の現状と今後の展望」には、12月13日(金)～15日(日)に東京で開かれた日本・ASEAN特別首脳会議の影響もあってか、非常に多くの聴衆が集まり、関心の高さがうかがえました。

また、2015年の創設に向けてにわかに注目が高まる「ASEAN経済共同体」をテーマとしたシンポジウムでは、長谷川聰哲中央大学経済学部教授をコーディネーターとして、パネリストに石川幸一亜細亜大学アジア研究所教授、清水一史九州大学大学院経済学研究院教授、助川成也ジェトロ(日本貿易振興機構)企画部事業推進主幹、上之山陽子パナソニック株式会社 渉外本部 国際渉外グループ 参事を迎え、TPP(環太平洋



Gスクエアで行われた神田外語大学ラムタイ同好会によるタイの伝統舞踊

キャリアセンター主催 上海企業訪問プログラムを実施



本学学生12名が、9月8日(日)～15日(日)の8日間の日程で上海を訪問し、上海白門会の協力のもと、本学卒業生との交流、現地日系企業および中国企業の訪問(工場見学、イノベーションセンター見学を含む)を行い、グローバルビジネスに求められる力についてインタビューを行いました。

また、本学の海外協定校である上海理工大学の学生とも交流し、ディスカッションを通して相互理解を深めました。

今回の訪問目的は、変化のスピードの速い国際都市・上海において、現地で働く日本人や、日本人とともに働く中国人の話を知り、グローバル経済のなか



コクヨファニチャー上海ショールームを訪問



グループワークを通して、自らの体験を振り返り、今後の行動につなげていく

での自分の将来の可能性や方向性を確認することにあります。多くの人との交流から、学生それぞれが自分のめざすグローバル人材像について考えるきっかけとなりました。

11月には参加学生による体験報告会(グループワーク)も実施。企業訪問プログラムの体験を一過性のイベントとして終わらせるのではなく、学生生活において意義のある経験として認識を深めました。学生たちからは、「自分の言葉で人に伝えることで、新たな気づきを得ることができた」「ほかの人の話から、自分の学びの振り返りになった」といった意見があり、得るものの多い場となりました。

洋戦略的経済連携協定)が始動する一方で、ASEANが地域経済の制度構築に向かってどう舵を取ろうとしているかについて建設的な見解が示されました。

なかには後楽園キャンパスに同時中継されたイベントもあり、理工学部生たちも熱心に耳を傾けました。

そのほか、日越友好40周年記念・国際シンポジウム、留学生による報告会、海外インターンシップなど学生のグローバル活動に関わるパネル展示など、魅力ある企画イベントが多数開催され、盛況のうちに幕を閉じました。

<開催報告を順次公開しています>



第5回インターナショナル・ウィークの詳細については、本学Webサイト特設ページからご覧ください。